

錦秋の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

今夏、八月二十五日から約十日間、三度目の欧州視察に行つて来ましたが、改めて世界遺産等の史跡を見ていくと、国境を接した国々の凄まじい戦争の歴史や傷跡があちこちに横たわっている事に気付かされました。

城は当然としても街そのものを石壁で取り囲み、外敵からの攻撃に備えるドイツの城塞都市や、有名なモンサンミッシェルも本来修道院で有り乍ら、英仏百年戦争の際にはノルマンディー地方の要塞として役割を託された様です。

またロンドンでは大英博物館初体験でしたが、何と入場無料で大英帝国の戦利品が所狭しと陳列されており、往時の国力を偲ばせるには充分でした。

三度目のロンドンで漸く願ひが叶い「ロゼッタストーン」も穴が空くほど眺め写真集も購入して来ましたので、是非弊社へもお立ち寄り下さい。

さて九月二十二日、横須賀の高等工科学校第五十八回開校祭に出席した際、去る八月三十日に明石市に於いて開催された「全国高校軟式野球選手権大会」での優勝報告の後に、深紅の大優勝旗が営庭でお披露目されました。

もちろん本校初であり神奈川県勢としても四十九年ぶりの快挙に、今年の開校祭は生徒や家族、そして来賓一体となり大いに盛り上がった処です。

翌二十三日のお彼岸は世田谷山観音寺にて「第六十二回特攻平和観音年次法要」が神仏習合でしめやかに営まれ、初めて出席させて頂きました。

ご案内は毎年届いていましたが、中々世田谷までは足が届かず先延ばしにしていたところ、今年は行事が重なり運良く参列ができて感激致しました。

顔見知りの方々が散見され、久し振りの邂逅に旧交を温め、これも在天のご英霊のお引き合わせよるものと感謝しつつ、哀悼の誠を捧げた次第です。

当日の式次第を同封致しましたので、ご一読賜れば法要の雰囲気はご理解頂けるものと思ひますが、七番目の「献吟」は先月号でご紹介した石垣出身の陸軍特攻第一号「伊舎堂用久中佐」の「指折りつ待ちに待ちたる機ぞ来る千尋の海に散るぞ楽しき」で、偶然とは云え感慨深いものがありました。

今年の八月十五日には故郷石垣に顕彰碑が建立され、泉下の伊舎堂中佐も六十二回目の「特攻平和観音年次法要」を喜んでおられるものと信じます。

ところで、ご来賓の中に本県高鍋町出身で、最後の帝国連合艦隊司令長官「小沢治三郎提督」のご遺族がおられて大変驚き、会員の高齢化が進む中、その子供や孫、或いは当会の趣旨に賛同する若者等が式進行等を手伝う姿を垣間見て、遠く宮崎から参加した甲斐があつたと云うものです。

毎月一日は必ず宮崎神宮と護国神社を参拝しますが、今月社頭には鹿児島出身野田毅陸軍少佐のご遺詠を掲示しており、一読して胸が熱くなりました。皆様も護国神社参拝の折、是非ご高覧頂けたならば幸甚に存じます。

いよいよ十一月一日は「全国防衛協会連合会青年部会第十三回青年研修会宮崎大会」と九州・沖縄地区防衛協会青年部会連絡協議会第三十一回宮崎大会」が新田原や日向灘、そしてシーガイアを会場に同時開催されますので、支部会員の皆様には積極的なご参加及び、広告協賛等のご協力をお願いと、結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

平成二十五年十月一日

